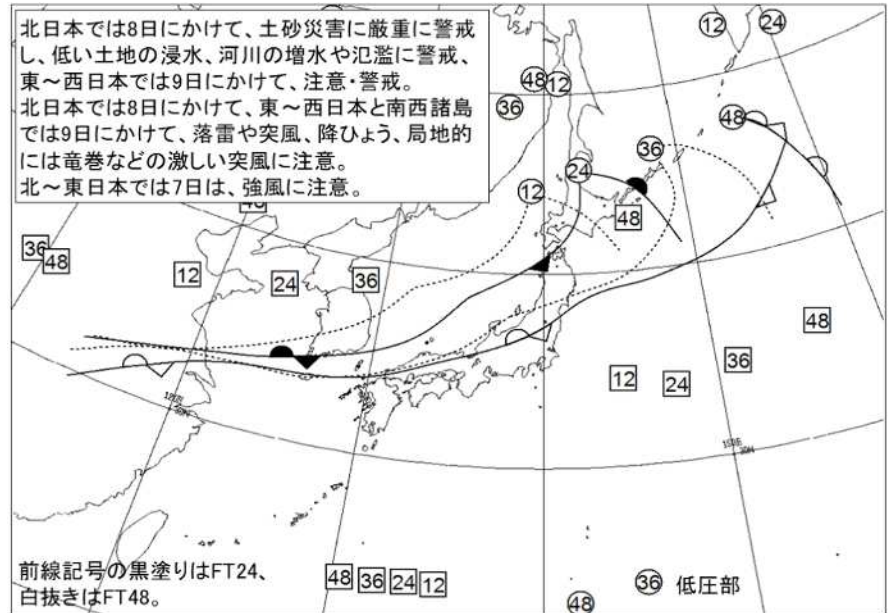


1. 実況上の着目点

- ① 低気圧が日本海北部を東北東進し、北日本にのびる温暖前線の影響で北海道地方では雨を観測。寒冷前線が通過中の日本海～朝鮮半島付近で活発に発雷。
- ② 500hPa 5700～5880mのリッジに対応する高気圧が関東の東をゆっくり南東へ移動し、500hPa 5940m付近の高気圧に対応する地上の高気圧が日本の南をゆっくり西へ移動。東北地方～南西諸島は、これらの高気圧圏内で晴れている所が多い。一方、日本の南の高気圧縁辺の下層暖湿気の影響で、南西諸島周辺では激しい雨を解析。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 7日は、1項①の低気圧が宗谷海峡付近を通過してオホーツク海に進み、前線が北日本や日本海を南下する。8日は、前線が東日本や西日本日本海側まで南下して、9日にかけてほとんど停滞する。前線や低気圧に向かう下層暖湿気と日中の昇温の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う激しい雨や非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。これまでの大雨の影響で地盤の緩んでいる所があり、土砂災害の危険度が高まりやすいことにも留意。北日本では8日にかけて、土砂災害に嚴重に警戒し、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒、東～西日本では9日にかけて注意・警戒し、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、低気圧や前線の近傍では強い風の吹く所がある。北～東日本では7日は、強風に注意。
- ② 1項②の関東の東の高気圧は8日夜にかけて日本のはるか東に移動し、日本の南の高気圧は9日夜にかけて沖縄の南に移動する。また、8日は朝鮮半島付近の高気圧が、夜にかけて日本の東に中心を移し、9日にかけて日本のはるか東に移動する。1項①の降水の影響が小さい地域では、これら高気圧に覆われて晴れて気温が上昇し、北日本では7日は、西～東日本では9日にかけて、猛暑日となる所がある。熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。
- ③ 南西諸島では、2項②の日本の南から沖縄の南に移動する高気圧の縁辺を回る下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。9日にかけて、落雷や突風、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考とする。

4. 防災関連事項〔量的予報等〕

- ① 雨量(06時からの24時間)：東北120、北陸・北海道100mm。
- ② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。
- ③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。全国的に注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。